

株式会社K2インターナショナルジャパン



◆事業概要

K2 インターナショナル・ジャパン 株式会社
International Japan L.T.D

評価対象事業	湘南横浜若者サポートステーション、K2合宿型プログラム／K2家族の会		
評価対象期間	2015年度	受益者数	388名 ※初回面談実施・登録者数
事業概要	● 1989年より不登校・ひきこもり・発達課題など、生きづらさを抱える若者たちの自立就労を支援し、「ともに生き、ともに成長する」をテーマに、既存の教育や福祉サービスと連携しながら、民間ならではの力で活動が続けている。団体設立当初より、共同生活を軸に、面談、セミナー、各種体験活動や、当事者の家族が中心となる家族会の運営サポート、家族支援などを行っている。 ● 2010年より湘南・横浜若者サポートステーションの運営開始。 ■<u>湘南・横浜若者サポートステーション</u>…就職・自立を目標に、各種支援を実施  1. 面談 - 初回面談、継続面談、家族面談／臨床心理士／看護師面談、社会／精神保険福祉士面談、就労支援面談、キャリアカウンセラー面談、アフターフォロー面談など 2. セミナー - 就労支援セミナー(ビジネスマナーや求職活動など)、生活支援セミナー(金銭管理や栄養／衛生管理など)、自己分析、職業人講話など 3. 体験活動 - ボランティア体験、就労体験、就農体験、有給職業訓練など ※就職活動支援として、各種企業とのマッチングやフォローアップ、情報共有なども行う。 ■<u>K2合宿型プログラム</u> 1泊2日～2週間の短期プログラム 3ヶ月～6ヶ月の長期プログラム ※合宿型プログラムは上記サポステで実施している支援に加え、生活・金銭管理／指導、受診同行や投薬管理／指導、福祉サービス受給のサポートなども合わせて行う。 ■<u>K2家族の会</u> - 当事者の家族が中心となって運営する活動体。月に1回ピアカウンセリング、スモールグループの実施。また部会ごとに様々な活動を行っている。 ※平成27年度登録者数 83名		

◆湘南・横浜若者サポートステーションとは



湘サポとは？



あなたの**一歩**を応援します。

湘南サポステは、働くことや自立に不安を抱えていたり、悩みを持っている方のための相談室です。



「長いブランクがあり、働く事に不安がある。」
「履歴書の空白を埋められず、面接に行けない。」
「しごとが長続きせず、失敗が怖い。」
「人とのコミュニケーションが苦手で一歩が踏み出せない。」
「長い引きこもり生活から抜け出し、自分にできる事から始めたい。」



みなさんが抱えている悩みや不安をお聞きし、具体的に行動するためのお手伝いをします。

運営団体のK2 インターナショナルグループは25年前から不登校や引きこもりなど、社会に出る事に不安を感じる若者の支援をしてきた団体です。

経験と実績に基づいた相談支援と独自の就労の場づくり、丁寧な出口支援が強みです。

◆K2合宿型プログラムについて



YMAC

合宿型若者自立プログラム

YOKOHAMA MODERN APPRENTICESHIP CENTRE

よこはま アプレンティスシップセンター

「Y-MAC」はK2インターナショナルが取り組む「ニートや引きこもりの若者に対する就労支援対策事業」の名称です。

Y-MAC = Yokohama Modern Apprenticeship Center (Apprenticeship=徒弟、見習いの身分、その期間)

特徴



「Y-MAC」では現代版徒弟制度の概念の下、
入塾した若者が共同生活を通じて生活改善を図りながら、
見習い・研修期間を経てそれぞれに適した場へ就職していけるように、
さまざまなプログラムが組まれています。

◆ロジックモデル

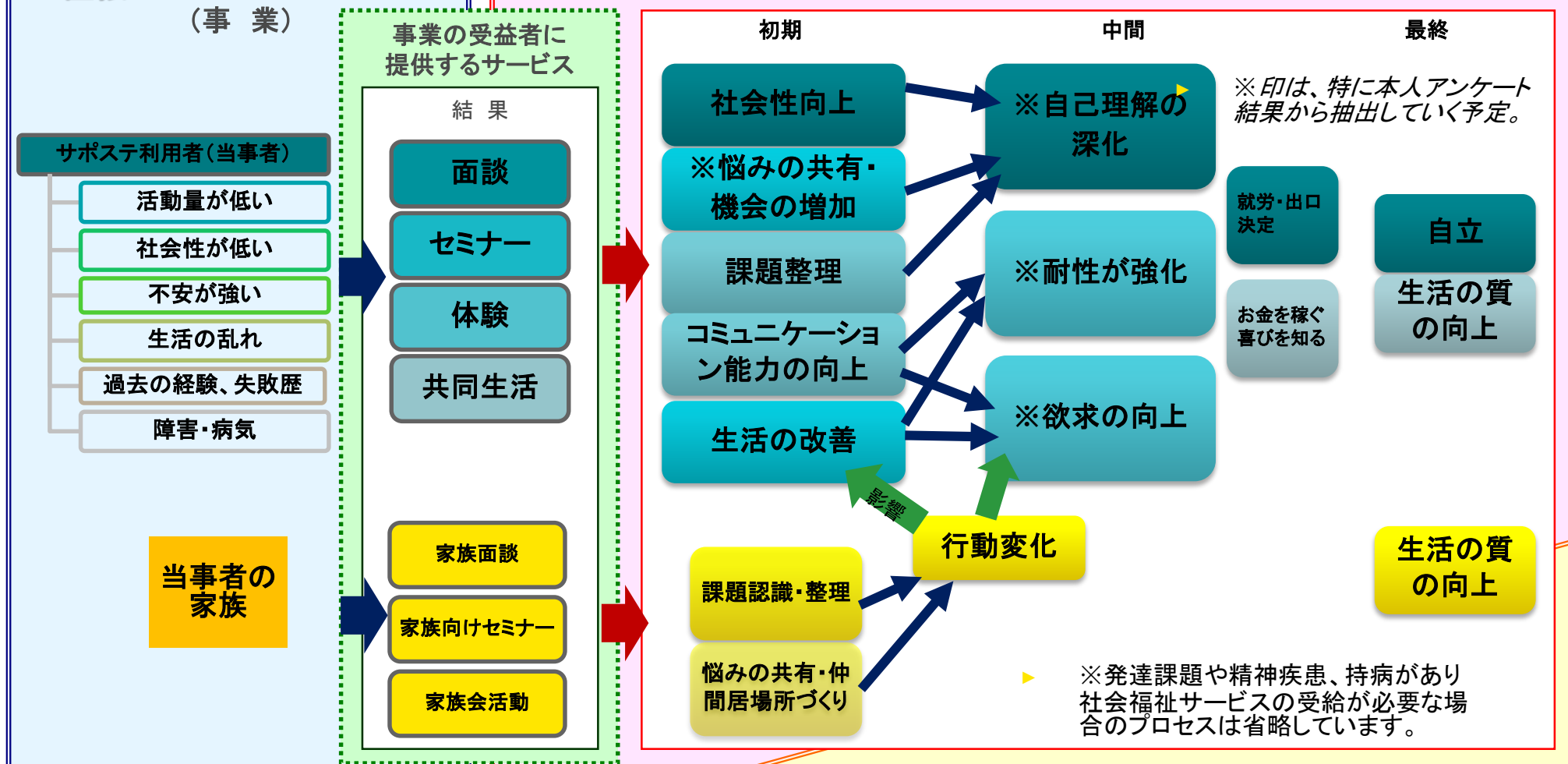
社会的企業名	評価対象事業	評価目的	ステイクホルダー
・株式会社K2インターナショナルジャパン	・湘南横浜若者サポートステーション ・K2合宿型プログラム／K2家族会	・組織内に成果を共有 ・自治体、支援者に対し「若者の自立支援における親の関与」の必要性を説明	・支援対象者 ・支援対象者の家族 ・事業者

『社会的企業』が
直接コントロールできる部分
(事業)

『社会・環境』の変化(社会的インパクト)

誰が？

どう変化する？



◆ロジックモデル作成のためのグループワークの様子



◆インパクトマップ

インパクトマップ・2016/09/02版

社会的企業名	評価対象事業	評価目的	ステイクホルダー
株式会社 K2インターナショナル ジャパン	・湘南横浜若者サポートステーション ・K2合宿型プログラム／K2家族会における若者の自立支援における親の関与の有効性の検証	・組織内に成果を共有 ・自治体、支援者に対し「若者の自立支援における親の関与」の必要性を説明	・支援対象者 ・支援対象者の家族 ・（事業者）

	結果・成果の別	ステイクホルダー	期待される変化(アウトカム)	指標	データ
	①結果、②初期成果、 ③中期成果、④最終成果	誰が変化するか？ 誰に影響を与えるのか？	どのような変化をもたらすのか？ どのような変化をもたらしたいのか？	どうやって測定するか？	どこで・どうやって情報を収集するか？ (アンケートの場合は設問内容案も)
1	② 初期成果	支援対象者	生活が改善する	外出機会の有無 外出範囲 生活リズムの安定 食事リズム・バランスの安定 運動量の安定 家族関係の良好さ 健康状態の良好さ	支援記録を入力しているセールス・フォースのクラウドシステム(SF)に追加項目を設定し、支援記録に基づき支援員が5段階で入力
2	② 初期成果	支援対象者	コミュニケーション能力が向上する	他者との会話の機会 他者への興味 表情の変化	SFの経過記録に項目を設定し、支援記録に基づき支援員が5段階で入力
3	② 初期成果	支援対象者	自身の課題が整理できる	自己肯定感 自己理解 就業知識 自立意欲	SFの経過記録に項目を設定し、支援記録に基づき支援員が5段階で入力
4	② 初期成果	支援対象者	自身の課題が整理できる	自分が抱えている課題、自立のプロセス、 目標に向けてのステップの認識	支援対象者アンケート (SFの項目に対して支援対象者の自己認識としてはどうかを聴取)
5	② 初期成果	支援対象者	悩みの共有ができ、その機会が増加する	悩みを相談できる相手の有無 人と関わることの不安 働くイメージの保有	支援対象者アンケート
6	② 初期成果	支援対象者	社会性が向上する	挨拶 敬語の使用 適切な報連相 適切な身だしなみ	SFの経過記録に項目を設定し、支援記録に基づき支援員が5段階で入力

	結果・成果の別	ステイクホルダー	期待される変化(アウトカム)	指標	データ
	①結果、②初期成果、 ③中期成果、④最終成果	誰が変化するのか？ 誰に影響を与えるのか？	どのような変化をもたらすのか？ どのような変化をもたらしたいのか？	どうやって測定するか？	どこで・どうやって情報を収集するか？ (アンケートの場合は設問内容案も)
7	② 初期成果	支援対象者の家族	課題認識や整理ができる	親自身の問題の認識 支援対象者の課題の理解 支援対象者の現状の受容	家族アンケート
8	② 初期成果	支援対象者の家族	悩みの共有、仲間・居場所づくりができる	悩みを相談できる相手の存在 親自身の居場所の存在	家族アンケート
9	③ 中間成果	支援対象者	欲求が向上する	自立意欲 他人、異性への興味 物欲・金銭欲など前向きな欲求	SFの経過記録に項目を設定し、支援記録に基づき支援員が5段階で入力
				自立意欲 他人、異性への興味 物欲・金銭欲など前向きな欲求	支援対象者アンケート
10	③ 中間成果	支援対象者	耐性が強くなる	人のアドバイスの受容 注意されてもめげないこと 現状の自分に対する満足度	SFの経過記録に項目を設定し、支援記録に基づき支援員が5段階で入力
				人のアドバイスを受容 注意されてもめげない 現状の自分に対する満足度	支援対象者アンケート
11	③ 中間成果	支援対象者	自己理解が深まる	自己肯定感 自己理解 就業知識 自立意欲	SFの経過記録に項目を設定し、支援記録に基づき支援員が5段階で入力
				自己肯定感 自己理解 就業知識 自立意欲	支援対象者アンケート
12	③ 中間成果	支援対象者（発達課題や精神疾患、持病等を有する場合）	自己理解が深まる	疾病理解 障害受容／理解 投薬管理	SFの経過記録に項目を設定し、支援記録に基づき支援員が5段階で入力

	結果・成果の別	ステイクホルダー	期待される変化(アウトカム)	指標	データ
	①結果、②初期成果、 ③中期成果、④最終成果	誰が変化するのか？ 誰に影響を与えるのか？	どのような変化をもたらすのか？ どのような変化をもたらしたいのか？	どうやって測定するか？	どこで・どうやって情報を収集するか？ (アンケートの場合は設問内容案も)
13	③ 中間成果	支援対象者	お金を稼ぐ喜びを知る	収入獲得の欲求	支援対象者アンケート
14	③ 中間成果	支援対象者	就労・出口が決定する	就労・出口の決定状況	支援記録
15	④ 最終成果	支援対象者	生活の質が向上する	充実した社会人生活の継続	支援対象者へのアンケート 面談実績
16	④ 最終成果	支援対象者	社会的・経済的に自立する (サポート付き含む)	社会的・経済的自立の状況	支援対象者へのアンケート 面談実績

◆データ収集の概要(SF経過記録追加入力項目概要)

●対象者： 平成27年度湘南横浜若者サポートステーション登録者

●入力情報： インテーク時、直近

●入力方法：

- ・ 今回再検討した評価、記録項目をSF(セールスフォース／支援記録のクラウドシステム)の経過記録に追加。
- ・ 各支援員が支援記録を元に、9月中に確認、評価し、入力する。

●追加入力項目：

- ・ ロジックモデルの初期、中間アウトカムの達成状況を測る項目
- ・ 1(全くあてはまらない)～5(とてもあてはまる)の5段階で、各項1～5の目安を注記

(一部抜粋)

◆生活面◆

※ロジックモデル：初期アウトカム「生活の改善」に対応

- ・ 外出機会は持てているか？
- ・ 食事リズム・バランスは安定しているか？

◆コミュニケーション◆

※ロジックモデル：初期アウトカム「コミュニケーション能力の向上」に対応

- ・ 他者との会話の機会はあるか？
- ・ 他者への興味はあるか？

◆データ収集の概要(アンケート調査の概要)

- 対象者： 平成27年度湘南横浜若者サポートステーション登録者
・アンケートの実施、回収が可能な対象者50名～100名程度を想定

- 実施期間： 平成28年10月中

- 目的：

ロジックモデルの初期～中間アウトカムに設定した各項目について、
本人主観でしか分かり得ない成果を確認する。

- 質問項目：

今後とも継続して利用していく為に、内容の詳細については内部で協議の上決定する。

(概要)

- ・ 社会性の向上 (一般常識やビジネスマナーの習得など)
- ・ 悩みの共有(仲間にはできたか、働くイメージはできたか、不安は減ったかなど)
- ・ 課題整理(状況、課題の整理は出来たか、自己理解は深まったか、目標やステップは明確になったか、自立のプロセスを理解したかなど)
- ・ コミュニケーション能力の向上(会話は増えたか、
- ・ 生活の改善(健康状態は、生活リズムは、運動量は、活動範囲は、など)

※その他、家族との関係性が自身の状態に与えた変化の有無、自覚なども質問項目に盛り込む予定。

※また、別途家族を対象にしたアンケートについても、継続して活用できるフォーマットを作成予定。

(今回の評価に直接は使用しない)